洛

星 回

想 1

ぬ所からコンクリートの基礎その含っていた。

提常は現<mark>数員室で、四分一の西側</mark>

一階まで完成した。三階は使用せで、全体に家族的な雰囲気がみな

徒と共に説数、今の話者らにはち

やれるものでそれにはそれだけの

生徒も教師も本当によくやったと 各人の決意がなければならない。

プレゼントの交換をやったととで

ある。サンクの命さんが大きな殺

って各人が五〇円づつ出し合って マス行事である。演劇、合唱をや

思う。朝の九時から午後三時頃ま

で色々と種目を並べてやってみる

をかついで先生方、

生徒的君にプ

レゼントをくばる。後は楽しいゲ

よっとわからないことだと思う。

又今年はヴィアトール学園創設者 ルイ・ケルブ神父の百一年にあた

は半信半疑であったろう。歴史は

にすぎず実験器具も殆どない有様 イプライター室があてられていた **室としての** 理科 密は今の 生徒会 タ が補導部室(部長は現校長)で特別

星の生徒であることが一目でわか その上帽子まで同色で市中では洛 が、当時夏の服装は浮い青色で、 ら一学期も無事に終ったのである 生徒も教師も互に注意を受けなが

生徒は治と休憩する眼がなく次々

と運動場にあらわれては耐技を行

初代校長はホワイト神父。服装礼

儀作法に関しては非常なまで厳格

夏季休暇には定められた登校日が る程立派な?制服であった。

い、休憩をとるのは父兄、幼児な

あって狩港を提出したりしたもの

受験生の両親は学校の前途を思え

戸に入学試験が始まる。恐らく まにとり残されていた。

は十周年を迎えようとしている。 十年一晋、洛屋も創立以来、来年

り、去る九月一四日ア・モンテカ

できたであろうか。

の洛星の姿を誰が穏後することが 行われ延々成生発展している今日 ント合唱団を迎えての記念行事が

行われ第一期生

の選考が無事に

得られ一倍の競争率で学科試験が 験であった。けれど多くの理解が 容は如何なるものか全く冒険な受 なしどんな数節がいるのか教育内

新しく九朔生を迎えた現在、ある

終り約百名近く

を思い出して学問の変形を知って

度基礎化された以前の洛星の姿

いただきたいと思い私の知る限り

にのったのであ として迎え軌道 の生徒を新入生

る今当時の校舎の利用概要を挙げ

ズボンにおり目、靴の汚れ等、吾

旗である。この夏休み中に三階の

で休み中もうかつにはおれない状

は前述の如くいつも演技に参加し

宣

CHINARES CONTRACTOR OF THE PERSON NAMED IN CONTRACTOR OF THE PERSON NAMED

たものである。全く家族的雰囲気

に包まれ楽しい一日であったこと

削

改築が進められたように記念して

記念祭間近

集

十六日の日曜日に行

縦と横の関係を密接にする必要が 心に、全生徒会員がまとまって、

あるだろう。

店

募

京都市北区小松原南町 TEL 92 2 3 3 4 上 林 紙 業 KK TEL © 7 8 4 4

必要な積極的協

副向などを展望してみた。 しも大わらわ、出来るだけ楽しく、愉快にやろうと衝苦心している。<br />
そこで、記念祭の準備の様子、 中間考査も終り、後は記念祭という大きな行事が待っている。この一週間はその準備にどこもかし

に映画をすることになったことで一回鑑賞を行うということに決定し って語り合い、何かを行う)とをている。マンネリ化した記念祭を と分科会(同じ趣味の者問志が集 も担否されたので、その空いた所 おいて従来の力べを突き破り、新 意見を出し合った結果、高堂で映 に何を行うかで、各クラスでとに 学校側に提出していたが、両方と一一新しようと、生徒会執行部では 今年の記念祭はあらゆる方面にらないし、本当に意義のあるもの しい、趣の変ったものを取り入れ

りだが、ただいつもと違うのはシ

今年度のスケジュールは表の通

ークレットがなくなり、その代り

ある。洛星の教育方針に合わない

というのがその理由だそうだ。

生徒会では最初、シークレット

六日から一湖間の間に亘って行わ

にするためにも、生徒会執行部中 る。その努力を実らせるためにも でもない。一年の最大行事である 生徒全員の積極的な協力は言うま 連日遅くまで残り、一生懸命であ だけに、提非成功させなければな 例年通りである。 た。マラソン、組立て体操などは エーデンリレーが加わった。これ **叉新たに一マイルレースとスウ** 

競走は全員が出場することになっ しいたのだが、本年は各組から大 一名を選抜して行い双子選別をと ますこれまでは、「アメートル と少し即向をかえてい 今年の体育祭は例告

抜倒で各組から選手を出し、これ る。一百メートルその他は例年通 りである。それから学年競技も選 真特集をやるそうである。美術部 である。写真部では、運動会の写 紙でケルブ神父の模型を作るそう 大した力のいれよう。ボール は沿場をしないとあっ 九クラブである。単は 史、山田、 競の以上 生物、與母、切手、 写真、美術、天文、騰 世不会の参加部は

わけて戦か うということ になっ 三クラスとも名簿の順番で二つに される。山岳部では屋外でやるこ とになっている。さてどのような 更に中学卒業生などの作品も出品 どこのクラブにせよ、そのクラ のがとび出るかたのしみだ。無線

(スウェーデンリレー、各走者 走る距離が異なっているリレ

にわけられていたのだが、今年は 又、搾倒し、騎馬戦なども行われ は得点に入いるとのことである。 るが、今まで毎年Bクラスが半分 では中学の一階廊下にポスター、 般、汽車などの模型を陳列する 油絵などを、そして中一人では、

●映画鑑賞

へ持っていってほしい 成果を集約、整理し、発展の方向

7

9

20

21日

22日

23日

るのを楽しみにしている。

18

1

6 日 体 日 休 み 開 会式、 日 日

又私と共に洛屋新聞の第一号を編 だ。安心して準備にいそしんでほ ドンだけ五時~六時まで売るとう

的、精神的援助を与え最後まで励 ものだ。 な意見を出して州非成功させたい けに、四分とは短いけれども活発 と規定されている。新しい試みだ る。そして、質疑は一人一間に限る うち、四分を質疑応答にまわされ とである。勿論、中学生も高校生 ち時間五分、高校生は十分、その に対して質問出来る。中学生は持 質疑に答が出来るようになったこ 二一位、三位の賞をも与 高校生の非士に限り、 年の最も大きな特徴は えるととになった。今 が謎の部は全質に登

中止し、文化祭の一時間目からま そうだが。今度は中学の方で足ら 入って一、一面行われた。高核の 排訴者に、大いに<br />
反称を保しても た始めるそうである。前号でも生 なくなった。そこで、川川市では 方はキチンとお金を入れてくれた な思いをしないように心がけてほ らったつもりなのに、まだこんな 侵とはなざけない。文化学をよ パンの自由販売はその後九月に すこと情景定した。これで疑唱さ

記念祭スケ

がよかったように記憶する。彼は 出演していた。津川君は特に数学

に見る立派な新聞ではなく図書館 中途にして転校して現在に至って もので九年もたては色はあせ、所 の有様を知るには貴重なものの一 死亡した時には自分のあらゆる物 が明治大学で学んでいた浪越岩が と多くの友達があり、本年の始め さらけだしているが、当時の学校 人はちぎれるなど、みじめな姿を と思うがザラ半紙にガリで切った いるのであるが、当時同学年の間 こになっている。秋川君は二年の

ったためで、その他は全部決定し った。高三と類母会がやらなくな 严里里 北風電子 ドロボー仙

(1)

現第二回接座を職員室とした。教

室は各組共二五名程度の小人数で

の校長室から呼出しがあってお説 日の連続、数窓でダベリ笑うと隣

数、生徒が騒ぐと補道部長から生

え様やり方如何で少数でも何とか **貧弱なものである。しかし物も考** 

楽しい集いは何といってもクリス

た。一学期の終り運動会についで え触学に迅動に大いに励んでい と強い信念に恢え非常な意欲に恢

竹映画の弗術で人気俳優になって

れが洛星の生徒の姿ではないでし て行く所の本当に、美しい姿、こ

放送したことがある。当時今は松 後日河州をラジオ放送にて市内に

七年現在の中学校の核合の

あり、教室もゆとりがあったもの

六年の覚頃と記憶する。付近の人

英語語而大会、国語コンテスト、

今でこそ夏には開襟シャツでもよ 求、シッタされたものである。又 々若い者のブショウな点を鋭く<br />
追

いる。

二学別になっていよいよ楽しい選

当時の生徒達は自分達がやらなけ

ームをやったり疑いだりして共に 仪を学校にて称したことである

す。洛星の良き点は卒業後もたと

き、私達大いに感波をしたので

え在学年数は少なくとも居を同じ

は私の脳狸を去らない。

れば、浴星の歴史を築けないのだ

に利用され入学式から弁論大会、

鉄骨が組立てられたのは昭和二

衣筅山の東湾約一万坪の旭の一角。ると今の図画祭が講堂、約三年程)

においていいてみよう

は何が建つのかと採口問音に振院

一一校等と話合っている。今の運動

行事が行われ、教員の数も少なく クリスマス行事、ありとあらゆる

ければダメ。いやはや全く苦しい

百二十名程の運動会その上記動場

の紳士(貧士)然たるスタイルでな くなったが当時は否広、ネクタイ

なおこれで一人一種目は必らず 配せずにどんどん食べて下さい。 売 肉は入っていない。心 は保証付、馬肉や鯨の スが登場する。中の肉

れば一王一百に帰済 われるが、もし雨が除

競技に出られることとなった。

のは売店であろう。今 年は新しくカレーライ いつも情が気にする一ウドンとスシは従来通りだが、近 玉も上り、二十五円から三十円に 頃の相次ぐ物価値上りで、ウドン

イスクリーム、ジュースなども売 スは七十円である。その他に、ア 傾上げ、スシは百円、カレーライ られる。記念祭の準備期間中はウ

れをカバーして熱演してくれるだ しくなったようだが、出版者はそ 来通り行うそうである。少しさみ 与えることになった。個人質も従

クラス趣向を変えて、 一面とも随意曲になったため、各 もうまくて、密査に出りそうだ。 から熱心に練習を開始し、ファイ 「を燃やしている。とこのクラス 合唱は、どこのクラスでも以前 なかなかお

てりっぱな音楽を聞かしてもらえ **曲にあと一曲演奏してくれる。夏** コンサートに予定していたその二 約十曲ぐらいだが、県人鑑歌など 日避くまで熱心に練習している。 がえるほどだ。その他にピアノ独 体み中の猛練習のかいあってみち 姿もあるそうだ。大いにはりきっ クラブから出場するグリーは毎 オーケストラは音楽会には土曜

サ、

み

父兄招待

そして合唱、中学、高校とも一、 ん全部参加出来ず、波喇の一位、 兄招待 加者がふえるだろう。 仲々出て来られず、今 たが、今年はずっと窓 まで出席者も少なかっ 日。日曜日以外の日は 二十三日は父兄招待

出場する。との一日大いに楽しん 弁論一位(中学・高校とも)だけ でもらいたいものだ。 一位、それに、クラブからではグ リー・クラブ、オーケストラ等が ての日は一時からなので、もちろ 自動販売その

演劇は去年よりも一つ少なくな レットっと、シークレシズム。、 るのはあきらかだから。パシーダ 学校側に対する不満をそのまま脚 いうことがあれば結果は失敗に終 に生徒が持って文化祭に、邸むと

中学、高校をごっちやにして賞を 以上五つである。だから質の方も

となってしまった。も があらわれている▼相 ようなコバルト色の空 うそろそろ目にしみる 例のだとく本年も記念 ▼今年も早くも二学期

祭、体育学をかねた文化祭が行わ った。生徒会幹部の再三の交渉 の。シークレット。は昨年まで三 り三つ一緒に十月十六日から一週 ヴィエトに一脈通じているよで心 応々とういうにとはよくある。カ てしまい。もっとはっきりしたは をもって、シークレット。をけっ 方針に合わないとの国家的な適同 うものは堅いものばかりで面白く がなくなってじまえば文化祭とい るが、本年は、学校の方針に行り があり熟翠されていたものであ 騒ぎであって生徒間には全く人気 を飾る父、この学校における年に が、只『シークレット』がないと スケジュール、すでに発表されて 聞が休みなのでいやに楽、という 間である。しかしこのうち日曜、土 な点はカトリックの大きらいなり ことだかわからなさすきる。これ トリックの悪い点である秘密主 体的な理由をいわないかである。 ないというのが多い。しかし学校 る▼生徒の声を聞いてみるとあれ ない。との理由で禁止されてしま 年間続けられており、文化祭最後 いうことが少し変わっている。と 感じのスケジュールである▼その れる。昨年の失敗を反省してやは があまりにも生徒にとっては何の らないのは何故学校側が、学校の 側はすでに押しきっている▼わか よう なものになって しまってい もけられてしまい仕方なく今度の いるとうりの相も変らないものだ 一度の本当のあけっぴろけな馬鹿

そこにはやはり何かの目的があらればならない。現在の新別前後とは日本の中略としての人々の人格 める我々、何の為に我々はは月毎月、月謝を払って洛星という私立の空間へきているのであろうか。 、可能を受うという目的の為に存しているのであるが、我々の学校に注意にそれ以上のものがあって 影やべきなのである。 現在我々が通学している学校には何があるのだろうか。 中学、 高校の一世した六年間を過ごじつつ

時期に向かおうとしている学校としては、もう少し何か後駆したものがあって殊名べきである。それ いうものを送るべきかを少々みてみた。 るがしかし恩在とれどうまくいっているだろうか。ちうすでに領立八年日をむかえていよいよ名集の には学校、教旨、生徒三著の共通した心構えが必要であるがまず二者がどのような気持ち学校生活と では、その点は何かあるであろうか。手徒手時には何も明記してない。入学案内には一店書いてあ

ているものも、少ないように思え のである。又、カトリック的道徳 もっているのであるが、大学へ絶 うこともしない。クラブ活動が停 ある。ところが、大いに遊ぶとい とういう態度が毎日毎日の態度で とかして難談をやらそうとする。 対に入いろうという気がまえがそ るという気持をもっていることは やふやである。大学へは一応はい いとのことである。授業中には何 つわいわいいうわりにはみられな 生徒の心のもち万もはなはだあ 徒 校で我々は何も生活したくないは い。このままではこの学校の存在 送っているのである。とのような る三者が三者ともに何の目的もな いということになる。存在は高も 意義というものは全然ないに等し んばなものしかできないに違いな 状態にあって何をすることができ はずであるし、出来たとしてもは く只、あやふやに毎日学校生活を 日毎日、何の目的もなしに招性で 無く只将性で動いているような学 ようか。何もすることはできない 学校へきている様な感じである。 といえばそうはいえるのだが、毎 び適度に学生生活を楽しんでいる 以上のように学校を形成してい 勿論一面からいえば、自由に、一

そして洛州というものを折たにつ 徹底する必要があるべきである。 この三者がもつともった情かに

生

事学技師から何とかっなきって 洛根というものをはっきりさす必 要があるのではないか。 この第八回記念祭を転機として

教 員

まわるように、いわゆる経験のあ が入ってこられるが、それをうわ ごく敬しく、毎年新しい若い先生 の一つとして教員の移心がものす がわが将星においての特異な現象 重要な役割を消じているのである 教員も学校形成にとって非常に

> の文句で答えられるに過ぎないと れたのかと問えば、いわゆる。「川 も何を目的としてこの学技へ来ら のよい数個態或所だという行もで のような点から、生徒の済息は休 いつもばっとやめていかれる。こ てくるわけである。又先生として

特に年後にとって出ることなので るものもある。このようなことは がはっきり感じられるといってい

も同立させようとしているように ふやである。一つの目的をいずれ このならびにというのが少々あや 人間を形成するとのことである。 識の向上ということ、ならびにカ トリック的道徳心を接い良識ある いうのは何であろう。学問的な知 学校側のこの学校の倒立理由と

あるが。 ないといえばそうであるが、もう 少人間がゆい感じがしないでもな たがいをしておられるという状態 少し何とかしてほしいものである い。勿論私立であるので、仕方が 感じがするのは生徒にとっては られるが、生徒則からみれば、仲 んだうかがっているというような 更にもう一つ先生は否定してお

学 交

りえないであろう。このようなこ 全先生がどんどんやめていかれる

にはほめたくてたまらないもので けなしているようであっても実際 ものは自分の子供のことを入前で がやっているという点があらゆる の心の持ち方である。父兄という 時にみうけられる。これを直すこ 育ててくれたら何とすばらしいこ とであろう。しかし中三以上でら いになると、何でもやるものだけ 者となって、新鮮な洛星の精神を 更に大事なことは、生徒の父兄 外部の人のみならずある時は父兄 ずである。それなのにその目的を いう即首で学校を経営しているは のっとった公正な人間をつくると 論大学も大事であろう。しかし、 応はそれよりもカトリック精神に ないのに大学の子価核でしかない までたっても "洛州"はそうでも とが公司されているようではいつ と際口を叩かれているであろう。 程子を存むことはないと思う。勿 学校当局にしてもこのような事

子という人もある。習い時代

語話すっしているのかと

っているというような感じを思さ

しているのである。学長、局が七

ある。同じようにとかくの呼のあ

にいである。

学校にいる生徒には沢れをも 生徒が頭に浮かぶらしい。そ

> わゆる洛星的消傷性という性質の みられている。その第一因は、い

特主が多いからではないだろうか 型使りの生徒が少ない。型にはま

にもは領人というものが出

性が開拓されていると感

ころがこれを問くと我々は何

がおぼえはしないだろうか

うとしているはずがない。しかし

ある。勿響なは失いに結構であ

んな真実にはよった人間をつくろる学校についてもほめたいもので

事実、中学も地区といくにつ

れて、ホームルームの時に何もし

明みにして問題ったほめかた。自 る。けなずものことおかしいが、

っきりさせることが学校の現在と

と原格(事合行って、 間を注 ないのである。そういうことに対 によどもはつきりと刑所されてい

これらないし、学校が終ったら家

うて厳しい規則にしばられて

いい。勉強ばかり、がらがり

何か一種屋様なものを持たら

しているのは確かである。 ないであろう。生活をエンジョイ

しかし実際には世間からはそう

とこそまず第一である。

般に「洛星」という言葉の響

主

解

をとこう

うか。質問がそそぞで上一時 得しかなしがらばにだろ う個度が単に誤解を大きなものとアー までやってもまだできません。と していく。実際にだってそのよう でそうにいながらも、は、一国人をつくることが、古の一致した自 には虚単心をほのめかず。こうい の四解をときより良い楽しい学問 るべきがである。 新しい検風を確立して世間から ル学問となりえないである

言うとしているとは感じられ だ。目が能定らし、規制にきか

続くであろうか。彼等でもが先駆 まだ溢れているがいつまでそれが

に多くの質問がだされることはあ

もしなが、しかし類志に表

行品は「程べると厳し 語化にある人参い

> うということが起っている。 三何もしないのに手で帰ってしま

これを高すのには、只生徒自身

活力で生活しているとき、

などはまだ小学校当時の雰囲気が の図の様も方二つである。中一生 三名かららのである。 硫

おかどうすると、いう称も

刑自身の都合があるのであろうが のである。その則由は勿う当々、 んな何辛しているのであろうか 台にた見心的人間、確かによい しかり現在の伏浪ではあまりにも ジュナるに違いないであろうが、 、 4れて、生徒もとれに対して 河雪上から和しつけて宗教うんぬ が、現在の社会倫理の時間はみ も思えない。カトリック精神をも 一時間の授業がもったいないよう な気がする。毎年毎年いつも改良

**父もう一つ、いつも学校の気け一されずに同じように授業が続いて** 気がする。 も何か学校側に関係があるような てない。先生が泊々かわられるの というけれども、勉強をも強要し 力が出っないようである。又、学 いるので、少々学校則としては
外
係りをいつまでもいつまでも
添れ

ではまずます成功だということで一保の場合でも、 りカトリックというものを認識し ある。

な業してからになるとやは みた。それによると、現在の情况 ている生徒が多いし、強要しても 学校門に少々このことを聞いて 冷めやすい。と だ。よく、日本 言われるが、安 と思う。 一部を除いてそ れがあてはまる 人は熱しやすく

てきた。これらから考えるとまず る。 物足りないような気がするのであ し、これだけでは何かど ちらも まず当初の目的は果していると考 った十年の間でできるようになっ えられるとのことであった。しか 又効果がない。これらだけでも大 きな成果である。又大学でも同志 社などとも同をならべることがた 判決であった。

訪 北

洛

高

0

何の足場もない数メートルの天井一

持って古ぼけた。いその理山として、清座でとに教 ある所の期待を一般は各人が気のむいた時しかしな 高校への訪問。 いる。下数学が一かしこれが落地が依がどうである 。前母の一中時一とおぼしめされる。しかし殊勝に 校門をくぐった一室がかわるために受音がもてない 初めての公立、ておしやべりをしている女生徒、 | 我々と大分望を当二している。 掃 | に字が "オクラホマ" と原明にき | なれていて、その理由として生徒 見行うで発を思う が高う。しかし名の意気は失いに とはいえないだろう。路上は人枚 こでは完成が日十一時とつ事、し ーブがあるそうだ。文化写を明に も、ヒマワリ会」という掃除グル して一部生徒のはりきりはものす

の様子を示し、しばしは標準が見 教室、脚は原機を含ながら

ペンを取っている次第である。 みも済んでしまった。今、改めて それは五月十九日の強行採決、六 もとうとう何も出来ないまま気体 しなければならないと思いなから れなくなった。安保に関して何か ゲンボーと言う声もあまり聞か 現在、僕に課せられている仕事 新安保も追引してもう三万月、 めて耳にしたのは丁隆美年の十月

門的な知識の向上をめざしている。てもらうことであると思っているいう気になった。円山荒型歌は赤 月十五日の流順事件において、国 ないで、特の胸の底に秘めておい 民が政府から受けた無時に対する 忘れないでいるということ、そが、労働者、学生で埋めつくされ わかった。 て統一行動というものに参加した 友達にさそわれ、行ってみようと 十一月二十七日僕は生れて始め

に大きく取り扱われて来だして始 頃であったと思う。だんだん新聞 まだまだ勉強不足ではあったが、 めてこれは電大な問題だと思った 記事を行っぱしから切りとった。 を引き出して来て、安保に関する 政府が何をしようとしているかが 。そして一週間も十日も前の新川 そして今度は冷淡に代るものとし まりにも冷淡であった機が、その で『デモ』というものに関してあ ながら、市役所まで扱いた。今ま 行進するのを友達と二人で見守り 時『必要だ』と感じるようなった だろうか。 アンボハンタイ』と叫びながら て、何故今までデモに参加しなか 集会が終り、デモ院が飲を試い

中々侵られず、自然と果がほおを

いそうだと思った。床に入っても

当の怒りなのだ。」と、それが傑 に見せたかった。「これが僕の本 伝わっていた。その展を電筋首相

にとっては最大の抵抗であったの

だろうか。

あったなら、余りにも国民がかわ

の歴史として当然起りうることで

れは大切なこと

声をよそにアメリカへ潤印に行っ

ったかっというものに変っていた

デモがあり、安保反対運動は本当

その目以後、中央、地方では連目

に国民のものとなった感があった

六月十五日、際はデモから帰っ

一月十九日、岸前首相は国民の

てしまった。それから四ヶ月間、

衆議院、参議院で活発な質疑応答

一人死ぬというあの惨事を聞いた て来て始めて、東京で女子学生が

り返り記 の怒りをいつまでも

水を浴せ、見事砂川を我々の頭の ぐに忘れられてしまっていた。し テンポの早い今の世の中では、す 中に呼びもとしてくれたのは伊達 かし、こうした世間の健急性に冷 六年前に騒がれた沙川事件も るのかわからなかったからだ。 ッとした。何をどのようにがんば パッテネ」と言われて、内心ドキ 人が信等に「へえー格見が、ガン ただろうか。 となりにいた高校の先生らしき 僕も出来るだけ参加した。抗蔵集 よってその運動を盛り上げること 会に一人でも多く参加することに 行われ、参加人数もぐっと増えた。

> に打ちのめされるではないだろう 安保というものによってあのよう と思った。そして、更に国民が占 安保というものの本当の姿なのだ

かとも思った。

二十三日には批准書は変換された

六月十九日には自然承認され、

安保は国民に政治的関心を持た

ていた。高校生は二十人も来ていが行われ、統一行動も何回となく一声を上げて吸いかかるその姿が、

H B

北

万

城

だった。例には 警官が学生を欲

かってくるよう

コン棒が張りか

いる僕にもあの い学生、京都に 官と何も持たな 完全武芸した整

どし、常に安保というものが自分 の体験から高いてみた。 にこの一年間の安保反対斗争を決 ということを忘れないでいるため の母のまわりで作用しているのだ そこで、僕は行の記憶を呼びも 様が、デンボーという言葉を初 しているのを目の当りに見たから に興群していた。皆が一体となっ いてくるようだった。何故か異様 僕から遠くはなれた所に存在して つぶやきながらも実感とならず、 いたものが、だんだんと僕に近づ て安保反対を叫び、戦い取ろうと 胸の中で"アンポ、アンポーと

激外にも生徒会と生徒はかけは | 大いにお互いに考えさせられる話 | 論者が多いそうである。 ていた。怒りと悲しみと不安とが 国民が侮辱された日、これが日本 の気持で一杯であったろうと思う。保を振り近って見る必要があるの ない。良識ある人々の胸の中はこ 僕はラジオに耳をくっつけて聞い 至って政府与党は強行採決に出た が大切だと思ったからだ。 "許せない、許せない、絶対許せ<br />
としている。際にはそれが残念で 一緒になり、果然としていた。 しかし、とうとう五月十九日に

一五、六人がひっぱって行っている |である。ホームルームにしたって 

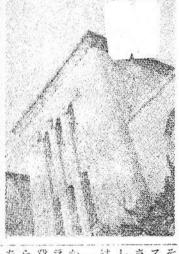
ではないだろうか。

ならない。もう一度、もう一度安

はその安保すら忘れ去られよう せたことは大きい。しかし、今で

らび野生作って中ですねびいて持一る。格見の教徒で言をしてはなら 一ようだった。非常に含むしい学校 かったのを後述に思っている。 ウドン、学用品を売っていた。非 たと思われるし後めたい気がす ようと思ったが都合により出来な 紙力を感じ、洛北の味をかみしめ ったようだが、大分前録している 食を聞いて見た。認識は治りなか 常に便利だそうだ。食堂に大いに さて最も重要な事、諸是の御印 学校販売店ではアイスクリー

宗教について尋ねて見たら、宗一笑いものだ。我会のやか正しざを 見せたらきっと不倒するでしよう ないということは理じば全くお



一記者を破立侵させてくれた。 前に載せられぬものも、一あり 一識の一つであるぞうな。単個上紙していけないとの事。先生を生徒と のつながりはなく、作はなう為

られ目を楽しませてくれた。特に

ンイートの他 船と急げついる 以来八十余年、 代をいれて何立 て影かいコ らころとならし 上な事いてのく 自由の校園を述

別生徒、色言

ざまれていた。これは洛北七不忠一会の理論づくめによる政策につい ス十二組剛出声とその規模の大き そうだが文化祭には、高二至クラ は、素晴しいのをやりましよう ラブは原程店を作りがっちりと同一 かれ、向う四日間行われる。パク さには懸きかつあきれ、うらやま 性をかせごうと、イナリ舞川、わ しく思った。我々も文化奈の時に一 文化がは来月九日体音祭から開

教研究会というのが去年まであっ

に学校へ来ているといっていた。一たぞうだ。全般に関心がなく無神

ほしい。

先日、某高校でホームルームが

考えております。生徒の行さんも

職業柄「健康」ということを常じ

健康に充分注意して元気に励んで

感じの良い学校、行流の良い南

▽洛星の感じ

自分ではあまりわかりません。

睐

マくせ

細かい「レース網」をしていると

職物をするのが大好き。夜なんか

時間を忘れます。それから山を歩

き廻る事も。

す。

さい町に生れ現住所でもあせま

は何易として栄えたといわれる小

線「園部駅」で下車、そとより

「国鉄バス」で二十分の田穹。

り知られていない」」派の山流山

京都所部并部門或町子有知。夢

脇阪てる看護婦

は貴婦にあっし、又生徒会の理

な意味がときめつけるがは小

たい。我後のオーカー語

に基本をおくべきだと以前してい

る。両方の立場から考えると、

方の意見はもっともだと思われ

現権は学校側にありと主張する!

ルームは学校教育活動の一環で

自主性がたりは、生まである。 はまだこの基高程やように生徒の

く洛州にいても、これぐらいの色

ームルームへの関心と盛り上り いがあるほどの生徒全員からの

期待している。

金属

ツ趣味

出合ったとき?

段をのぼるとき、美しい女性に

洛星生徒と気むこと

いろいろあります。

もっとのびのびと熟頭してほし

マくせ

何か行動を起すときに無常談

せきばらいをする。例えば、

だろうか

点取り出になりすぎてはいない

部

4) その上で素直符をまとった常員が せる。授業中など特にそうだ。 ないことである。しかし部長以下 ける。我が洛州の柔道部の特徴は を吹き出しているのを時々見か 勝川部長は「今や日本の国技 四々は常に何か様侠さを感じさ

柔道は世界的ものになっている。 民に生世界に普及さす為にももっ いておかれたらどうだろう。 一脳な世の中だ。渡身術ぐらい心 しもっと若い日本人は柔道を愛好 られたらどうか。」といっている

に取り扱ってほ ンド ルル

新

少 当 、 、 、 、 、 、 、 、 、 を紹介しよう。 先ずメンバー

星

う。そうだ、それがハンドボール 原君である。どうだ恐れいったろ 部のカラーなのである。 即宗野、三宅、 質、好形、社 出、

浴

だ。我と思わんものは入窓された る。それは控え選手のいないこと 闘が功を殺して不振の洛星各クラ 山君のキープは定評がある。顧問 フにおいて伝統と実績の両方を備 気持が良い。しかし悩みが一つあ 標準は厳しく非常に合理的である スた唯一のクラブとなっている。 として煕頭指揮する小匹先生の活 平断、丹州若のシュート、小宮

謠 曲 部

毎週土曜日には先輩の豊島者の

ると京都高接能楽会では傑出して い迅味について毎月する訓練にも いるそうだ。川端常長は「この渋 僕にも勿論解らないが聞く所によ なかなか受け入れられないようだ 余りにも渋い趣味なので諸君には 指導を受けて練判に激んでいる。 文

なる。」といっていた。 芸は身を助けるといわれる所以

であるが、諸君にとっては古代の 日本精神を鑑賞する機会ではある から少しでも理聴してほしい。 文化祭の時には発表される予定 以上層 建夫記

グリークラブ

ったようである。そして続いて衣 迎会に於いては成功を修め、部員 の熱もこれを機として大いに高ま いってからも入学式での新入生歓 きな成果を修めてきた。今年に入 つくもよおしにはいつも出演し大 目になった。その間、行事と名の 笠中学、ノートルダム女学院との 高校のグリークラブもはや三年一た高校交芸部の雑誌「赤土」がと

許可を得、丁寧

团

の成功の自信は特に大きく文化祭 両親適音集会では大成功で終り、 してきた。部長松島君を中心に完 連ねて万場の拍手をおおった。と 於いてはロシヤ民謡、県人継歌を グリー株は上昇している。 中でもノートルダムの親義会に 苦名先生の指導にも円熟味が増

のレベルにはほど強いようだ。 全にまとまっているが、まだ一般 オーケストラ部

ケストラを悟と共に作っていこう しい。しかしこれも部員全員と小 日を費すので部員も相当苦しいら とにかく一曲を完成さすのに数ケ いくクラブである。夏休みも八月 トリーをふやしていっている。 る意気込みは大いに買うべきだ。 らえる。もっともっと立派なオー であろう。我々一国成功を祈る。 等原先生が団結し、着々とレパー 二十一日から二十四日まで合宿す トではきっと思考を驚かすこと 又今日も音楽器の響きが耳をと 十月一日の円山に於けるコンサ 西

で、単部風に 痛みが激しいの 畳が使われるが 準備に柔道部の なお記念祭の

▼一学期から何かと騒念されてい | の気持から発刊されてきただけに

る。仲々スマートな雑誌である。 数六十六ページ、定側三十円であ の十七日に発刊された。総ベージ 容的にはかわらないが、生徒自身 一応以前にあったが「群星」と内 るもの。題字その他は黒、校舎は 赤と橙で仕上げられている。 ンは第一回卒業生、安藤先輩によ 趣は新たなものである。 写真は「赤土」である。デザイ

モニアーオーケストラの夕べ」 で行なわれる土脈コンサートに出 ストラ部が母週土曜に円山音楽堂 演することになった。当日は「ジ 第十月一日土脈日 本校のオーケ

というプログラムで本校は最後に ウィリアム・テル序曲

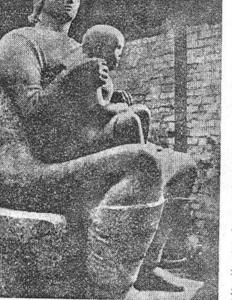
文化クラブの中でますトップを

聞きに行かれたい。 るクラブだからきっとその労苦が むくいられるだろう。諸君もぜひ の二曲を演奏する予定である。 日ごろ一生懸命練刊に励んでい タンホイザーより大行進曲

▼この度数学科担当の先生として (耐天の時は中止)

刻のすぐれた作家です彫刻のこと ここでわざわざこの作品をとりあ ヘンリームアは英国人で現代彫一前を見つけ出すことが出来ます。

です。全くめずらしいととです。



|マリノマリーニと友に必ず彼の名 興味と制作欲を沸かせない。 埋母 を少し調べて見ますとイタリアの。けたのは現代の彫刻家達にあまりものの影がうすくなっていたのも 近世になってか 大体彫刻その 刻まれたものです。

その原因です。それが十九世紀に う趣がついています。そして石に (大融先生)

引々と登壇した。マイクの前に立 なり新任の株別を始めた。中田 いとも脱粛な顔つきで 校長先生に紹介されて 四月八日、 始菜式、 イントログクションは大家のやる ンを攻撃するというゲテモノ話ま 法の基礎はインチキだとニュート 楽しんでいたや私はオジヤンだ。 言われた時は本当にかっかりした 少し調べてパークレー的正が微分 で仕入れてあった中一を教えろと てて、煙に登いてやろうと密かに 學想していた。<br />
微樹分学成立史を

随想

笑いが止らない。 年度は特に礼儀に重きをおいて… 始まった。 すぐにゲラゲラに変る してサッと降壇した。あとで私は ハッハ……」とかなんとか胡騰化 「どうも礼義を知りませんようで …」という測示をしたばかりだ。 大変だ。今さっき校長先生は「今 垣上はお隣いなしにベラベラやっ しいる。その内にクスクス笑いが 先生が「礼」と号令をかけられた いだから中一は のも良く憶えて メ群なんでなも いない。「お願 何かに変えて下

三の幾何を担当する数学科の講師 ない。洛星では中一の代数と中 やマージャンが特別うまい訳では 勉強している。といってパチンコ 数学科に学んだ。現在は確認論を 今春大学を卒業した。大学では

さい」と森住先

(ロッシー! 1) 号を語き散らしペラベラと非じ立 のあるい、dydx、~なんてな記 なんかを担当して県板にあの首様 から勿論山気が大ありだ。高校の 一年か二年を数えたかった。数量 私は大学を出たばっかりだ、だ

られた。 

新たに宮山信夫先生がはいってこ一部先生、池上先生がおやめになっ 近く我等の為に尽して下さった服 なおそのかわりに今まで四年間
▼写真部では高校二年生の修学旅 教室の廊下で九月十二日より開か

どが宗教的なも
とうした中にあってヘンリー の彫刻はほとん ッサンス頃まで 中世からルネーし今度はずいぶん人間的でリズム 対して現代は脳的です。

ヘンリムア

九四三~九四

てしまいましたは、心は子ルカ・2、34、35、40と云 間との有機関係でプリミティブに アは単抽意形態で製母子を量と空

> になる日。なお工費は自八十万円 ゆくゆくは宝桜舎が鉄の窓わく もちろんお金は一本百八十円世 ふやしたのは七月十五日からで

わすがたいして関係ない、と言う との先生(?)には、よく顔を合 おやおや今回は現色物ですね。

(編)(集)(後) (記)

なるが、本当にすまないと思って 二面を且二鈴木、利村、三面を且 います▼本号は一面を耳三北出、 ることができる。又弁解がまして った街さんの手に新聞をお渡しま ▼ 一学捌ももう十月になる。 今ま

気絶をしている絵だろう」とヨタ したからいつもセーターとシャツ 高校、大学と制服のない学校で過 雑然とした五色の海だ。私は中学 しているものとばり思っていた。 タイだけだ、色らしい色は。高校 なドレスなどがゴチャゴチャ雑居 マンボズボン、五頭母美人の真赤 ヤツ、スポーツシヤツ、結エリ、 もあの五色の形の方が好きた。自 って、悪い事など出来ない、勉強 制限を着ると心身ともに引きしま 田の精神に満ちているからだ。 美しさに風味を持たない。

強然と とした美しさはある。星団となれ ば迫力も感じる。だが私はそんな なれない。確かに秩序だった終然 らかも知れない。それにしても私 していても小しだらにさえ見えて は側服というものをあまり好きに

役会だ。油上先生は、私が洛龍は

池上先生がおやめになった時、

険なようだ。

なっていたか分らない。して見る

とあまり制限の悪门を云うのは弦

校の生徒だった時、丁度教育美別

に洛北へ来ておられた。だが原

である事の「証明」をやった。中 一の第二時間目は問題を生徒に解 話、総ての三角形は一等辺三角形 ている。こちらも釣られてニヤニ ヤ笑った。ここでも確談、詭邦の 』のクラスへ行くとクスクス笑っ 「ちがいますよ」とやられた。中

研究した事もない。第一ツルカー七、八人出てツルカメ淳、植木昇 ものだ。ツルカメ真の教え方など

ささか感激した。可愛らしい賢と にした。中一のクラスへ行ってい っていて駄目だった。 そうな顔が並んでいる。誤度は実

に真剣だ。最初の時間は雑談、記 た。「エジプトは白万人が驚いて 数法の話、エジプト数学の話をし

すか」と誰かが質問した。「多分 た」というと「千万はどんなので 両手を上げている総文学で表現しった。

行のすんだ今、その写真展の高二の応ばによる写真コンタールを行

子像をムアがとりあげているからなってロダンやブルデルが出現す ると再び活椀になりました。しか にみちみちています。中世の静に

いてもらった。嬉しそうに里板にで通した。語エリも一度音た事は を言ったら後で調べた生徒がいて中学といえば、セーター、ポロシ あるけれど首がまわらなくいやだ

山

生に頼んだけれどもう時間間が決などを解いている。ところが困っ 仕方がないから中一を教える事 事がサッパリ分らない。「説明し 私も「宜しい」という仕掛だ。そ うなづいて「ヨロシイ」と言えば て」などと問場に命じて、じっと の晩あわてて算術の本を開いて 生徒の反応を見ていた。大部分が たのは先生だ、 
黒板でやっている 
高校健は重大な修正を受けた。 
紺 「ツルカメ算」を勉強したものだ。手な所に席を占め、核長先生の訓 私には何とも異様だ。色とりどり の服装でガヤガヤと講堂に入り勝 いる。一種の美しさもある。だが たしかに秩序があって整然として 静かに先生の話を聞いているのは から三日程でやめた。とも角私の 示をあるいは野次りあるいは拍手 一色が一堂に会して黙想したり、

う。

将星へ来て、何度位、

生徒とま

て走っている。誰か他におつきあ

のだ。今は中一の連中をつかまえ

紙数もあまりない。かけ足をしよ

話が被へそれでしまった。もう

もより体が重くて出った。をこで

との頃美容体操(?)を始めた。

週に一回か二回各屋の近辺を走る

をし勝ち」ではあまりほめられた 着ないと「心がだらけて、悪い事

でろ随分体重が増えた。<br />
この<br />
夏中 確認論の勉強が楽しいのか、この

二の諸君と比良へ登ったが、いつ

はまったものを しかし何か型に

中一や中三の諸君と遊ぶのや、

人もいる。それ になる」という

しようという気

の夏休み心上先生のクラス高する 数学教室での先輩でもある。今年 分談が深い。その上、私の理学部

について水冰に行ってクラ素が大

は、一なのだ。

たない内に数学科の長老ブンにな

行かれるのは淋しい。私は一年経 学の先生がポツリポツリとやめて 達とも仲良くなった所だった一数

りそうだ。

ものではないと思う。

紺、紺、だ紺の海だ。先生のネク 格星へ来て暖いた。前後左右

し果てはあと何分で終るかカケを

が間違えた。洛州は個服があるの 生のお母さんと異本先生の母さん 十回位はあった。尼近では脱部先 ちがえられたか計算してみた。三

なう予定で、部では多数の応ばを 望んでいる。それによい作品には なお、記念祭の時には全桜生徒一様達の心にやすらぎを与えるだろ 今にうっそうとした大木となり。

水が入ってきて役中に五、六時間 がくさっていたそうで、昨秋の伊 ▼夏休み中に中学校の校舎の窓わ 勢湾台風の時など不造の窓から雨 くが鉄製の窓わくに変わった。 質品を出すとうことである。 も掃除をなさったそうである。 以前の木造の窓わくはその半分

▼生徒の長年の望みがかなってか あのだだっ広いグランドに、現ヨ パン売場の側にそなえつけてある 百本あった所に五十本ふやした。 ▼高校生徒会では好評の資き参り

ゼラ修道院の好意で、ヒマラヤ杉

した。そんな高校時代を送ったかにこうだ。なかったらどんな事に ところでしょうか。とにかく授業 又、授業を受けた人ならやさしい い人は学校内に少ないでしょう。 を受けている生徒計れは多くあり ません。けれど間接には関係のな

い。ヒントと写真が一つになると さてとこで写真をよく妹で下さ

下さいよ。 だ口もとから広い額に気をつけて 答が出て来ますよ。きりっと結ん 前回の解答は呉本先生でした。

普通には事務の話しかしないでし

田、北川、松本、サ治岩が担当さ れましたV又新たにM一の活水、 もどしどし加入して下言に 三谷君が入いられました。古さん 次保、H一海人、四面をM三四

